

平成 29 年度

(平成 29 年 4 月～平成 30 年 5 月)

自己点検評価書

比治山大学短期大学部



HIJIYAMA

目 次

【基準 1 使命・目的等】

使命・目的及び教育目的の設定.....	1
使命・目的及び教育目的の反映.....	2

【基準 2 学生】

学生の受入れ.....	3
学修支援.....	4
キャリア支援.....	5
学修環境の整備.....	6
学生の意見・要望への対応.....	7

【基準 3 教育課程】

単位認定、卒業認定、修了認定.....	8
教育課程及び教授方法.....	9
学修成果の点検・評価.....	12

【基準 4 教員・職員】

教学マネジメントの機能性.....	14
教員の配置・職能開発等.....	15
職員の研修.....	16
研究支援.....	17

【基準5 経営・管理と財務】

経営の規律と誠実性.....	18
理事会の機能	18
管理運営の円滑化と相互チェック.....	19
財務基盤と収支	20
会計	20

【基準6 内部質保証】

内部質保証の組織体制.....	21
内部質保証のための自己点検・評価.....	21
内部質保証の機能性.....	22

【独自基準】

比治山大学・比治山大学短期大学部中期計画（平成28年度から平成33年度） に基づく平成29年度事業計画進捗状況.....	23
---	----

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準1. 使命・目的等

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 1-1 使命・目的及び教育目的 の設定	<視点> 1-1-③個性・特色の明示 (留意点) <input type="checkbox"/> 使命・目的及び教育目的に 大学の個性・特色を反映し、 明示しているか。	・「建学の精神」及び大学の教育目的を明文化し、学生が能動的に学ぶ「卓越した教育」の地域に密着した短期高等教育機関の中核的拠点となることを明示している。	なし	なし	・ホームページ>大学案内>ミッション・ビジョン https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/20160829_vision_mission_DAIGAKU.pdf ・比治山大学短期大学部学則
	<視点> 1-1-④変化への対応 (留意点) <input type="checkbox"/> 社会情勢などに対応し、必要に応じて使命・目的及び教育目的の見直しなどを行っているか。	・社会情勢に対応し、「ミッション」「ビジョン」を定義した。	なし	なし	・ホームページ>大学案内>比治山大学短期大学部のミッションとビジョン http://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/20160829_vision_mission_TANDAI.pdf

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4～H30.5)

基準1. 使命・目的等

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	課題	行動計画	
【基準項目】 1-2 使命・目的及び教育目的の反映	<p><視点> 1-2-③中長期的な計画への反映</p> <p>(留意点) 使命・目的及び教育目的を中長期的な計画に反映させているか。</p>	<p>・建学の精神及び短期大学部の教育目的に基づいて中長計画(平成28(2016)年度～平成33(2021)年度)を策定している。</p> <p>・中期計画は年度ごとに事業計画で示し、事業報告書で進捗状況をまとめている。</p>	<p>・中期計画の平成29(2017)年度の実施段階で、すでに役割を果たした事業や、見直しの必要な戦略や事業も出てきている。</p>	<p>・中期計画(平成28(2016)年度～平成33(2021)年度)は平成30(3018)年度で中間期を迎えるので戦略や事業について見直しを行う。</p>	<p>・中期計画(平成28年度から平成33年度)</p> <p>・平成30年度事業計画</p> <p>・平成29年度事業報告</p>	
	<p><視点> 1-2-④三つのポリシーへの反映</p> <p>(留意点) □使命・目的及び教育目的を三つのポリシーに反映させているか。</p>	<p>・建学の精神・理念と短期大学部の教育目的を反映させ、平成29年4月1日から、新たな三つの方針(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を示した。</p> <p>・社会状況の変化に伴い、平成31年度に向けディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを精緻化している。</p>	なし	なし	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針</p> <p>https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html</p> <p>・2018学生便覧</p>	

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4～H30.5)

基準2. 学生

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	課題	行動計画	
【基準項目】 2-1 学生の受入れ	<p><視点> 2-1-②アドミッション・ポリシーに沿った入学受入れの実施とその検証</p> <p>(留意点) □アドミッション・ポリシーに沿って、入学受入れなどを公正かつ妥当な方法により、適切な体制のもとに運用しその検証を行っているか。</p>	<p>・アドミッションポリシーに沿った入学受入れ方法として、推薦入試では、面接試験を実施し、学力試験を課す入学試験では、試験科目の内容を工夫し、アドミッションオフィス(AO)入試では入学受入れ方針(アドミッション・ポリシー)の具現化を図り、受験生の適性を評価している。</p> <p>・入試委員会を中心に入学受入れを実施し、適切な体制のもとに運用している。学科とIR委員会で、入学受入れに対する追跡調査を行っている。</p>	<p>・アドミッション・ポリシーに沿った各入学試験の判定方法の実施が課題である。</p>	<p>・大学入学受入れ改革に基づいた試験の見直しをおこなうため、入学受入れ改善ワーキンググループを設置した。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html</p> <p>・2018年度学生募集要項</p> <p>・入試委員会規程</p> <p>・入学受入れ改革ワーキング要項</p>	
	<p><視点> 2-1-③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</p> <p>(留意点) □教育を行う環境の確保のため、入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保しているか。</p>	<p>・短期大学部の平成30年度入学定員充足率83%、収容定員充足率85%</p> <p>・幼児教育科の平成30年度入学定員充足率84%、収容定員充足率96%</p> <p>・総合生活デザイン学科の平成30年度入学定員充足率84%、収容定員充足率83%</p> <p>・美術科の平成30年度入学定員充足率80%、収容定員充足率74%</p>	<p>・各学科の入学定員及び収容定員の充足が厳しい状況にある。</p>	<p>・入学定員の確保が厳しい状況について、要因を分析し、入試等での改善など、対策をさらに検討する。</p>	<p>・ホームページ>教育研究活動等の公開>情報の公開>公開する教育情報>入学受入れ(大学、大学院、短期大学部) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4nyuugakushasuu.pdf</p>	

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4～H30.5)

基準2. 学生

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 2-2 学修支援	<p><視点> 2-2-①教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備</p> <p>(留意点) □教職協働による学生への学修支援に関する方針・計画・実施体制を適切に整備・運営しているか。</p>	<p>・教員と職員はそれぞれの専門性を活かして、学修支援体制の充実を図り、各委員会や合同研修会参加により、方針・計画・実施に関する情報を共有し、教員と職員が協働する体制を整備している。</p> <p>・「学生情報システム(Hi!way)」は、履修登録や掲示情報検索、時間割・成績照会、出欠確認、e-ポートフォリオ機能を持つ「Hi!step」「Hi!check」、e-learningシステム「Hi!space」(LMS)等の機能を整備、職員が運用管理し教員や学生が活用する体制を取っている。</p> <p>・全教員及び非常勤講師がオフィスアワーを設定し、「学生情報システム(Hi!way)」や掲示により周知し、学修支援を行う体制を整備している。</p> <p>・「学習サポートセンター」や「教職指導センター」を設置し、教職や資格取得希望学生への指導を強化するなど、支援体制を充実させている。</p> <p>・図書館に平成26(2014)年に設置したラーニング・commons(愛称「Me+Library みらいがらりい」)は、学生による自主的なグループ学習だけでなく、授業にも活用できる体制を取っている。</p>	<p>・教学委員会、IR委員会、評価委員会、高等教育研究所、及び質的転換加速化本部の連携による、学修支援が必要である。</p>	<p>・学修支援については、全学的な連携のもと、引き続き教員・職員合同のワーキンググループを中心に、教員と職員が一体となった活動を推進する。</p>	<p>・比治山大学教学委員会規程</p> <p>・比治山大学学習サポートセンター規程</p> <p>・比治山大学教職指導センター規程</p> <p>・履修の手引き</p> <p>・学生便覧</p> <p>・学生情報システム(Hi!way)利用の手引き</p>
	<p><視点> 2-2-②TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実</p> <p>(留意点) □教員の教育活動を支援するために、TAなどを適切に活用しているか。</p>	<p>・「比治山大学実施要項」を整備し、チューター・アシスタントの配置を可能としているが、平成29年度は活用していない。</p> <p>・演習科目については技術助手や授業助手等を配置している。</p>	なし	なし	<p>・比治山大学チューター・アシスタント実施要項</p>
	<p><視点> 2-2-②TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実</p> <p>(留意点) □中途退学者、休学者及び留年者への対応策を行っているか。</p>	<p>・休学・退学の諸原因を鑑み、毎年5月に、大学1.2年生を対象にチューターが面談を行い、それを早期に発見し解決をはかっている。</p> <p>・留年者にはチューターやゼミ担当が面談をおこなっている。</p> <p>・学籍異動の事案については、教員と職員の間で綿密な情報交換を行いながら対応している。</p>	<p>・チューターやゼミ担当教員だけでは、心のケアが困難であるため、専門的な知見が必要である。</p>	<p>・平成30(2018)年度からウェルネスセンターに専任の学生相談員を置き、連携して学修支援を行う。</p>	<p>・学生便覧(平成29(2017)年度版)</p> <p>・教務の基本事項(平成29(2017)年度版)</p> <p>・平成26～28年度休退学一覧について(各学部教授会(5月開催)資料)</p> <p>・学生情報システム(Hi!way)のHi!check</p>

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4～H30.5)

基準2. 学生

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 2-3 キャリア支援	<p><視点> 2-3-①教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備</p> <p>(留意点) □インターンシップなどを含め、キャリア教育のための支援体制を整備しているか。 □就職・進学に対する相談・助言体制を整備し、適切に運営しているか。</p>	<p>・教育課程の共通教育科目に、キャリア形成科目を開講し、キャリアセンター長である教員が担当しキャリア支援をしている。</p> <p>・「キャリアセンター」では就職・進学に対する相談・助言体制を整備している。</p> <p>・平成29年度は、キャリア参与による就職先企業へ訪問を行い、卒業生の現状調査、企業の今後の動き、求人票の依頼などを行った。</p> <p>・インターンシップ、会社見学バスツアー、企業が運営しているボランティアへの参加支援を行った。</p> <p>・未内定者の就職活動の状況を電話で確認し、なんでも相談会への参加支援を行っている。</p>	<p>・未内定者等の就職活動状況を把握できていないことが課題である。</p>	<p>・相談体制(専任職員及び相談方法)を充実させ、学科のキャリア運営委員やチューターと連携を取り、学生の就職支援を継続する。</p>	<p>・比治山大学キャリアセンター規程</p> <p>・平成29年度就職活動支援プログラム</p> <p>・2017比治山大学キャリア支援講座</p> <p>・JOB HUNTING GUIDE2017-2018</p> <p>・2017シラバス</p> <p>・インターンシップ学生一覧</p> <p>・2017ひろしまフラワーフェスティバル「ひろえば街が好きになる運動」学生ボランティア</p> <p>・会社見学バスツアー BtoBを知るコース</p>

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準2. 学生

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 2-5 学修環境の整備	<p><視点> 2-5-①校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理</p> <p>(留意点) □教育目的の達成のため、校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、付属施設などの施設設備を適切に整備し、かつ有効に活用しているか。 □施設・設備の安全性(耐震など)を確保しているか。</p>	<p>・教育目的の達成のため、大学設置基準に定める施設として、会議室、事務室、研究室、講義室、演習室、実験・実習室、図書館等を整備し、アリーナやグラウンド、テニスコートの施設も備えている。</p> <p>・施設・設備の安全性を確保するため、耐震基準を満たしていない建物(1、2、3、8号館)の耐震化について検討し、耐震補強・改修計画の策定を進め、H29.12月1号館の耐震化は完了した。</p> <p>・2、3、8号館の耐震計画について方向性が定まった。</p> <p>・施設の維持管理は、各法令に規定された点検・検査やトイレ・廊下・階段・講義室・実習室の清掃を行う等、教育環境の管理を行っている。</p>	なし	<p>・キャンパス内施設の最適化と3号館改築の準備工事として、平成30年度は、4号館及び1号館の改修工事、トレーニングルーム棟を新築する。</p> <p>・引き続きキャンパス全体の整備計画(新3号館の計画含む)の策定について検討する。</p>	<p>・牛田キャンパス施設整備マスタープラン</p> <p>・平成29年度学校基本調査用資料</p>
	<p><視点> 2-5-②実習施設、図書館等の有効活用</p> <p>(留意点) □適切な規模の図書館を有しており、かつ、十分な学術情報資料を確保しているか。開館時間を含め図書館を十分に利用できる環境を整備しているか。</p>	<p>・図書館は大学との共用で、ラーニング・コモンズ(愛称Me+Library)を有しており、授業にも利用されている。</p> <p>・所蔵冊数は、平成30(2018)年3月末現在、215,093冊、図書のほかに、雑誌、電子ジャーナル、データベース、視聴覚資料、電子書籍等を導入しており、OPAC端末とインターネット端末からの所蔵検索機能を整備し学術情報資料を確保している。</p> <p>・情報の発信については、「広島県大学共同リポジトリ」(通称HARP)に参加しており、「比治山大学短期大学部紀要」、「和顔愛語」教職課程研究」の論文等をWeb上に公開している。</p> <p>・特別文庫として、資料数2,106点の「三島由紀夫文庫」を設置している。</p> <p>・平成29(2017)年度より、授業期の8時30分開館を開始し、開館時間は、授業期・試験期共、平日は、8時30分~19時、土曜日は、隔週(試験期は毎週)10時~16時である。</p>	<p>・学生ボランティアによる学習アドバイザーの継続が課題である。</p>	<p>・学習アドバイザーについては、引き続き、教員の理解と協力を受けながら実施方法を探る。</p>	<p>・図書館利用ガイドブック</p> <p>・図書館利用ガイドブックミニ</p> <p>・ホームページ>比治山大学図書館 http://www.hijiyama-u.ac.jp/library/index.html</p> <p>・広島県大学共同リポジトリ(通称HARP) http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hijiyama-u/</p> <p>・平成29年度図書館利用統計</p>
	<p><視点> 2-5-②実習施設、図書館等の有効活用</p> <p>(留意点) □教育目的の達成のため、コンピュータなどのIT施設を適切に整備しているか。</p>	<p>・教育目的達成のためIT関係設備として、コンピュータ実習室、コンピュータ自習室、CALL教室2室及びCALL自習室に加え、図書館内に自習用端末を整備しデジタルメディア等図書館のリソースと連携して学習できる環境を実現した。以上各設備を、事業計画に従い適切に整備している。</p> <p>・H29年8月に実施したシステム更新に伴い、学生のファイルサーバ機能の一部をクラウド化し、より大きなストレージ容量を提供したほか、初めて学外からのアクセスを実現した。</p> <p>・「学生情報システム(Hi!way)」は学生のポータルシステムとして履修登録をはじめ、掲示情報や時間割の確認、授業資料の提示、課題の提示と提出等に利用されている。</p> <p>・LMS環境は上記システム更新に伴うGSuite教育版の導入により、教員の授業資料、小テスト、アンケート等の作成/配付、学生の課題提出や出欠確認などが学内だけでなく学外でも可能となり多様な授業展開が可能になった。</p>	<p>・ネットワークスイッチの更新、Wifi環境の改善、校舎間を結ぶ光回線(部分的に敷設後20年程度経過している)や屋内LAN配線の更新がまだ実現できていないため、6号館、9号館以外では授業で利用できない場合があることが課題である。</p> <p>・サイボウズの利用拡充により、事務作業の効率化を図る。</p> <p>・本年も新システムの利用普及を図り、学内全体への定着を目指す。</p>	<p>・H30年度にネットワークスイッチとWifi環境の更新を行なう。</p> <p>・校舎間、屋内のネットワーク配線の更新は各校舎の整備や建て替え状況に合わせて実施するが、ネットワークスイッチの更新の際、学内回線の経年劣化などを測定依頼し、緊急性のある場所を把握しておく。</p> <p>・サイボウズのユーザ規模の拡大(100⇒150)、比較的簡素な申請業務の電子化等を実現する。</p> <p>・システム普及の新たな方法として、これまでの教室での説明会の他、H30年3月より教職員向けに申込制の少人数説明会を導入しており、これを次年度も継続して効率的な普及を図る。</p>	<p>・「Hi!way」システム利用の手引き</p>

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準2. 学生

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 2-6 学生の意見・ 要望への対応	<p><視点> 2-6-①学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</p> <p>(留意点) □学生への学修支援に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、学修支援の体制改善に反映させているか。</p>	<p>・本学ではチューター制を採用しており、初年次の学生に対しては、「チューターによる面談」を実施し、学修支援に関する学生の意見・要望の把握を行っている。</p> <p>・学科教員全体が学科会議で学生情報を共有し、サポートしていき、学修支援の改善に反映させる体制をとっている。</p> <p>・全教員及び非常勤講師がオフィサーを設定し、「学生情報システム(HilWay)」や掲示により周知し、学修支援に関する学生の意見・要望の把握を行っている。</p> <p>・原則として全ての科目で実施している「学生による授業に関するアンケート調査」や「卒業生アンケート調査」や「共通教育に関するアンケート調査」等の調査を行い、学修支援に対する学生の意見をくみ上げるシステムを整備し調査結果を授業改善や学修支援に反映させている。</p> <p>・「学生モニター制度」(年2回)や「AP学生モニター」により、学生の意見の聞き取り調査を行っている。</p>	<p>・学生から繰り返し上がってくる意見・要望があり、対応できていない事項がある。</p>	<p>・意見や要望の内容を区分し、関係する組織を明確にする。</p>	<p>・比治山大学学習サポートセンター規程</p> <p>・学生による授業に関するアンケート調査結果</p> <p>・卒業生アンケート調査結果</p> <p>・共通教育に関するアンケート調査結果</p> <p>・学生モニター制度議事録</p>
	<p><視点> 2-6-②心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</p> <p>(留意点) □学生生活に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、学生生活の改善に反映しているか。</p>	<p>・全学的には、毎年、新入生アンケート、学生モニター会議および卒業生対象アンケートなどで学生の声を集め、要望を把握し対策を講じている。</p> <p>・学友会に関する学生の意見等は、学生支援室が相談を受けてできる限りのサポートをしている。</p> <p>・例年、クラブの援助金不足を後援会に補助してもらっていたが、新たに「クラブ活性化支援制度」を立ち上げ課外活動の活性化を図った。</p>	<p>・学生の声をいかに多く聴取できるかが課題である。</p>	<p>・課外活動の活性化、特色あるクラブへの支援が必要である。</p> <p>・学内行事および学科行事の充実が必要である。</p>	<p>・クラブ活性化支援制度</p> <p>・新入生アンケート調査結果</p> <p>・卒業生アンケート調査結果</p> <p>・学生モニター制度議事録</p>
	<p><視点> 2-6-②心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</p> <p>(留意点) □学生生活に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、学生生活の改善に反映しているか。</p>	<p>・学生の心身の健康管理・健康相談に関する問題や保健師・学生相談員らが直接聴取した学生の意見については、ウエルネスセンター運営委員会や学生相談連絡会で検討し、改善に反映している。</p>	<p>・非常勤の学生相談員では学生のニーズに十分対応できず、また教職員との連携も十分に行えないという課題がある。</p>	<p>・平成30(2018)年度からウエルネスセンターに専任の学生相談員を置くことになっているので、教職員と連携し支援を行う。</p>	<p>・比治山大学ウエルネスセンター規程</p> <p>・比治山大学ウエルネスセンター平成29年度活動報告</p>
	<p><視点> 2-6-③学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</p> <p>(留意点) □施設・設備に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、施設・設備の改善に反映しているか。</p>	<p>・全学的には、毎年、新入生アンケート、学生モニター会議および卒業生対象アンケートなどで学生の声を集め、要望を把握し対策を講じている。</p> <p>・学友会に関する学生の意見等は、学生支援室が相談を受けてできる限りのサポートをしている。</p> <p>・平成29年度は、トレーニングルームの充実、クラブの活動内容に見合った施設整備、学生の憩いの空間づくり等、行っている。</p>	<p>・学生の声をいかに多く聴取できるかが課題である。</p>	<p>・課外活動を活性化する。</p> <p>・学生福利厚生を充実させる。</p>	<p>・新入生アンケート調査結果</p> <p>・卒業生アンケート調査結果</p> <p>・学生モニター制度議事録</p>

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準3. 教育課程

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-1 単位認定、 卒業認定、 修了認定	<p><視点> 3-1-①教育目的を踏まえた ディプロマ・ポリシーの策定と 周知</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>教育目的を踏まえ、ディ プロマ・ポリシーを定め、周知し ているか。</p>	<p>【幼児教育科】 ・建学の精神、教育目的、ミッション、ビジョンを踏まえ、短期大学部のディプロマ・ポリシー 策定し、さらに学科のディプロマ・ポリシーを定め、ホームページや学生便覧に掲載し周知 している。</p>	なし	なし	<p>・ホームページ>大学案内>三つ の方針 https://www.hijiyama- u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2017学生便覧</p>
	<p><視点> 3-1-①教育目的を踏まえた ディプロマ・ポリシーの策定と 周知</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>教育目的を踏まえ、ディ プロマ・ポリシーを定め、周知し ているか。</p>	<p>【総合生活デザイン学科】 ・建学の精神、教育目的、ミッション、ビジョンを踏まえ、短期大学部のディプロマ・ポリシー 策定し、さらに学科のディプロマ・ポリシーを定め、ホームページや学生便覧に掲載し周知 している。</p>	なし	なし	<p>・ホームページ>大学案内>三つ の方針 https://www.hijiyama- u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2017学生便覧 ・学科作成「5系列の学び」 ・学科パンフレット</p>
	<p><視点> 3-1-①教育目的を踏まえた ディプロマ・ポリシーの策定と 周知</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>教育目的を踏まえ、ディ プロマ・ポリシーを定め、周知し ているか。</p>	<p>【美術科】 ・建学の精神、教育目的、ミッション、ビジョンを踏まえ、短期大学部のディプロマ・ポリシー 策定し、さらに学科のディプロマ・ポリシーを定め、ホームページや学生便覧に掲載し周知 している。</p>	なし	なし	<p>・ホームページ>大学案内>三つ の方針 https://www.hijiyama- u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2017学生便覧</p>

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準3. 教育課程

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-2 教育課程及び教授方法	<p><視点> 3-2-②カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性 (学科)</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーとの一貫性が確保されているか。</p>	<p>【幼児教育科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度に三つの方針の見直しを行った際に、カリキュラムポリシーとディプロマポリシーの一貫性に配慮してこれらのポリシーを作成しており、一貫性は確保されている。 ・平成31年度に向けて、ディプロマ・ポリシーを含む三つの方針の見直しを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法令改正に基づいた幼稚園教諭養成のカリキュラム検討と合わせて、カリキュラム・ポリシーとの整合性や、ディプロマ・ポリシーとの一貫性を確認する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再課程認定に伴う作業のためのワーキンググループを学科内に設置し、柔軟に対応できる体制を整えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2017学生便覧
	<p><視点> 3-2-②カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性 (学科)</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーとの一貫性が確保されているか。</p>	<p>【総合生活デザイン学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度に三つの方針の見直しを行った際に、カリキュラムポリシーとディプロマポリシーの一貫性に配慮してこれらのポリシーを作成しており、一貫性は確保されている。 ・平成31年度に向けて、ディプロマ・ポリシーを含む三つの方針の見直しを行っている。 	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2017学生便覧
	<p><視点> 3-2-②カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性 (学科)</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーとの一貫性が確保されているか。</p>	<p>【美術科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度に三つの方針の見直しを行った際に、カリキュラムポリシーとディプロマポリシーの一貫性に配慮してこれらのポリシーを作成しており、一貫性は確保されている。 ・平成31年度に向けて、ディプロマ・ポリシーを含む三つの方針の見直しを行っている。 	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・ホームページ>学科・専攻>短期大学部>美術科 https://www.hijiyama-u.ac.jp/department/tankidaigaku/bjutsu/index.html ・2017 学生便覧 ・美術科リーフレット

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準3. 教育課程

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 3-2 教育課程及び教授方法	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。(共通教育)</p> <p>□シラバスを適切に整備しているか。</p> <p>□教授方法の改善を進めるために組織体制を整備し、運用しているか。</p> <p>□履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫が行われているか。</p>	<p>・ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラム・ポリシーに即し、全学共通の共通教育と学科ごとに実施する専門教育によって教育課程を体系的に編成している。</p> <p>・カリキュラムマップおよびナンバリングにより教育課程が体系的に編成されていることを明示している。</p> <p>・共通教育は、「スタートアップ」「コミュニケーションリテラシー」「キャリア形成」の3分野からなる「比治山ベーシック科目」と「教養科目」からなる全学共通教育カリキュラムを編成している。</p> <p>・シラバスには、授業の概要、教育目標との関連、到達目標、評価基準、授業計画、参考書、予習復習の準備を記述し、コア・アクティブラーニング科目群、コア・アクティブラーニングのキーワードの記載により「4×3の比治山力」のどの力が身に付くのか示している。</p> <p>・教授方法の改善を進めるために、「学生による授業に関するアンケート調査」や「共通教育に関するアンケート調査」の調査結果を教員にフィードバックしている。</p> <p>・「学生モニター制度」(年2回)の結果はFDで報告され、「AP学生モニター」の結果はAPAL可視化部会におけるFDer養成講習において結果を報告している。</p> <p>・アクティブラーニングの教授方法や「初年次セミナー」の各学科の取り組み紹介と共有など、授業改善のきっかけとなるようFDer養成講習において報告している。</p>	<p>・「大学教育再生プログラム」の事業推進にともない、アクティブラーニングの実施率は高まっているが、実質的な効果の上がるものとなっているかの検証が必要である。</p> <p>・短期大学部では現在、履修登録単位の上限設定を定めていない。</p>	<p>・アクティブ・ラーニングに関しては、「大学教育再生加速プログラム」事業を継続実施する中で、FDerを中心として日常的なFD活動をさらに推進する。</p> <p>・平成29年度(2017年度)に履修登録単位の上限設定方針を定め、平成30年度(2018年度)に要項等を制定する予定である。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/cam</p> <p>・2017 学生便覧</p> <p>・シラバスフォーマット</p> <p>・学生による授業に関するアンケート調査結果</p> <p>・共通教育に関するアンケート調査</p>	
	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成(専門教育)</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。</p>	<p>【幼児教育科】</p> <p>・幼児教育科は、カリキュラム・ポリシーに即し、幼稚園教諭、保育士の養成のための法令に基づいた教育課程を編成している。</p> <p>・専門教育科目は、教育実習や卒業研究を含む「保育の実践と研究」を中心として、「保育の対象の理解」「保育の本質・目的の理解」「保育の内容・方法の理解」「保育の基礎技能」の5つの領域で構成し、理論と実践のバランスに配慮するとともに、保育者に求められる資質・能力を確実に修得できるように体系的に編成している。</p> <p>・法令に対応し、カリキュラム・ポリシーに沿ったカリキュラムを検討している。</p>	<p>・法令改正に対応し、カリキュラム・ポリシーに沿ったカリキュラムを編成することが課題である。</p>	<p>・学科の中に、ワーキンググループを設置し、ワーキンググループでの検討をもとにして、学科全体で検討する。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/cam</p> <p>・2017 学生便覧</p>	
	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成(専門教育)</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。</p>	<p>【総合生活デザイン学科】</p> <p>・総合生活デザイン学科は、カリキュラム・ポリシーに基づき、専門教育科目では多様で幅広い系列を編成し、最新の知識や技能を教授できるカリキュラムを編成し、確実に社会で活躍できる職業人としての必要な知識・技能の定着を実施した。</p>	<p>・系列とゼミ選択に整合性がないことが課題である。</p>	<p>・学生の系列と資格の選択方法を調査し、専門教育への展開を検証する。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/cam</p> <p>・2017 学生便覧</p>	
	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成(専門教育)</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。</p>	<p>【美術科】</p> <p>・美術科専門教育科目については、カリキュラム・ポリシーに基づき、1年次で、各分野に共通する造形芸術に関する基礎的な知識や技能の修得を目的としたカリキュラムとし、2年次で、各領域共に実習系科目を重視した系統的なカリキュラムを編成し、段階的に美術の専門的スキルを身につけることができるカリキュラムとして教育課程を編成している。</p> <p>・同時に、美術領域の知識やそれらに伴う技能の修得のため、美術理論系科目を12科目、先端的表現のスキル向上のためのCG系科目を5科目配置し、知識と技能のバランスや現代的課題にも配慮した構成の教育課程を編成している。</p>	<p>・メディア系のグラフィックデザインコース、映像・アニメーションコース、マンガ・キャラクターコースにおいて、段階的な共通カリキュラムが組み立てられていないことが課題である。</p>	<p>・学生の基礎力向上のため、基礎実習科目の改正と新しい実習科目を導入し展開した効果の検証を行う。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/cam</p> <p>・ホームページ>学科・専攻>短期大学部>美術科 https://www.hijiyama-u.ac.jp/department/tankidaigaku/bjutsu/index.html</p> <p>・2017 学生便覧</p> <p>・美術科リーフレット</p>	

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準3. 教育課程

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 3-2 教育課程及び教授方法	<p><視点> 3-2-④教養教育の実施</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>教養教育を適切に実施しているか。</p>	<p>・共通教育は、本学での学習に必要な基礎的学力、学習方法を習得するとともに、多角的視点から専門領域を超えて問題を探求する態度や意欲を育成するため、「比治山ベシック科目」と「教養科目」からなる全学共通教育カリキュラムを編成し、適切に実施している。</p> <p>・共通教育の組織体制として、教学委員会内に、「スタートアップ」「キャリア形成」「日本語」「外国語」「情報」の各専門委員会を置き、各担当専門の事項について責任を持った企画・運営を進める体制を構築し、教授方法の工夫・開発と教育課程の編成の見直しを毎年度行っている。日本語・外国語の各専門委員会は年度初めの連絡会において、非常勤講師を含めた授業担当者全員で教授方法の共有化を図り、工夫・開発を組織的に実施する体制を整えている。</p> <p>・教養教育に関しては、教学委員長、教学副委員長(2人)及び学生支援室長の4人での打ち合わせ会で検討し教学委員会に諮っているが、教養教育の専門委員会等の設置についてはまだ検討していない。</p>	<p>・共通教育科目の科目編成や分野構成、科目により履修者数の差があることが課題である。</p> <p>・平成28年度からの中期計画の「教育改革ビジョン」に基づく重点事業「社会的・職業的自立に関する指導のための教育体制の整備」について、教学委員会としては、その適切な実施体制を踏まえた共通教育の検討にはまだ着手ししていない。</p>	<p>・共通教育科目のスリム化や科目構成の検証を行う。</p> <p>・教養教育の組織の見直しを検討する。</p>	<p>・2017 学生便覧</p>	
	<p><視点> 3-2-⑤教授方法の工夫・開発と効果的な実施</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。</p>	<p>【幼児教育科】</p> <p>・実習を中心とした教育課程において、事前指導、実習、事後指導を有機的に組み合わせた教育を実施している。</p> <p>・「子どもがスキ」という保育者志望動機を確かなスキルとし、現職段階への円滑な移行を図るため、得意分野の育成に努める素地を形成し、常に自己を成長させる生涯学習力を持った保育者の養成を旨としている。</p> <p>・設置してある「バーチャル保育室」を用いて、実習の事前指導の中で、模擬保育場面の保育計画を実習グループごとに立案し、検討を行ったうえで、それに基づいて付属幼稚園での実習に参加し、さらにその経験を、実習事後指導の授業の中で相互に検討しあうようにしている。</p> <p>・学生は付属幼稚園での実習の様子を録画したビデオを視聴しながら、学生相互に検討を行っている。</p> <p>・卒業後幼稚園や保育所などで働くために必要なスキル(学習到達度指標)を12項目示し、自己評価用成績評価表によって、学生自身の到達度を可視化し、実習を含む学修への動機づけを高めている。</p>	<p>・アクティブ・ラーニングをはじめとして、様々な授業を在学中の教育実習、保育実習、あるいは卒業後の現職段階での保育のための確かなスキルへと統合していくことが課題である。</p>	<p>・授業の一環として行われている東区の子育て支援ボランティア(ポッポひがし)への参加、合宿オリエンテーションなどの機会を有機的に接続するための検討チームを設置し、“子どものかかわり”、“他者のかかわり”という保育の基盤となる体験を深める工夫をしている。</p>	<p>・2017学生便覧</p> <p>・ホームページ>学科・専攻案内>短期大学部>幼児教育科 https://www.hijiyama-u.ac.jp/department/tankidaigaku/youji_kyouiuku/index.html</p>	
	<p><視点> 3-2-⑤教授方法の工夫・開発と効果的な実施</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。</p>	<p>【総合生活デザイン学科】</p> <p>・今年度より1年次の学科設定科目「生活達人チャレンジプログラムⅠ」において情報検定を取り入れた。</p> <p>・社会人力の基礎のスキルとして同学年が同じ目標に取り組むことで、さらに上の級(上位)の資格に取り組む学生が増えた。</p>	<p>・2年次生の学科設定科目「生活チャレンジプログラムⅡ」は通年科目で、ゼミ活動と連動しているが、個々の教員の指導によって取り組みに差があった。</p>	<p>・2年次生の学科設定科目「生活チャレンジプログラムⅡ」については、計画の際に学科教員で共通認識を持つため、事前に確認の時間を持つ。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/cam</p> <p>・2017 学生便覧</p>	
	<p><視点> 3-2-⑤教授方法の工夫・開発と効果的な実施</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。</p>	<p>【美術科】</p> <p>・美術科専門教育科目では、多様で幅広い領域(コース)を編成し、卒業までのカリキュラムマップに沿って1年次導入の基礎実習から、それぞれの専門(コース)にコア科目を設定し、実習・演習科目を中心にアクティブ・ラーニングを実践するカリキュラム編成をしている。</p> <p>・カリキュラム編成及び、授業内容については、学科内にカリキュラムワーキングを設置し、毎年点検と改善の検討を行い提案を実施している。</p>	<p>・カリキュラムの改善に伴うコア科目の見直しと、今年度新たに導入した基礎実習科目群について、学習成果の検証を行い、引き続き授業内容の改善計画の検討を行う。</p> <p>・平成30年度より実施されるコース改編に伴う授業内容の検証を継続する。</p>	<p>・平成29今年度新たに導入した基礎実習科目群について、学習成果の検証を行い、引き続き授業内容の改善計画の検討を行う。</p> <p>・平成30年度より実施されるコース改編に伴う授業内容の検証を継続する。</p>	<p>・ホームページ>学科・専攻>短期大学部>美術科 https://www.hijiyama-u.ac.jp/department/tankidaigaku/bjutsu/index.html</p> <p>・2017 学生便覧</p>	

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準3. 教育課程

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-3 学修成果の 点検・評価	<p><視点> 3-3-①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>(留意点) □ 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。</p>	<p>・「大学教育再生加速プログラム」事業においてねらいとする「4×3の比治山力(汎用的能力)」については、本学独自評価指標「比治山力レポート」を用いた評価を行っている。</p> <p>・学修状況の点検・評価は、学期末に実施される「学生による授業に関するアンケート調査」の集計結果により、授業内容の点検を行っている。また、ベネッセ「大学生基礎力レポート」を大学1～4年、短大1～2年生に対して実施している。</p> <p>・資格取得状況は、学科ごとに点検・評価し、卒業判定時の教授会で、全学科の免許・資格取得者数を把握している。</p> <p>・学生の意識調査は、チューターによる面談(1年次)や、「学生モニター制度」(年2回)による聞き取り調査を行い、教員研修会で報告を行っている。</p> <p>・就職先へのアンケート調査は、大学教育再生加速プログラム事業に伴い平成26年(20年)から実施し、「4×3の比治山力」(汎用的な力)について調査している。また、「学外関係者を交えたHi!step・Hi!checkの活用方法に関する検証・協議」(平成29年11月30日)では、Hi!step・Hi!checkの活用や「4×3の比治山力」について、企業人からの客観的意見の聴取を行った。</p>	<p>・複数実施しているアンケート調査の点検・評価方法をポリシーを踏まえた内容にすることが課題である。</p> <p>・就職先へのアンケート調査による、企業が求める「4×3の比治山力」(汎用的な力)と、学生自身が回答する「比治山力レポート」との間に違いがあることか課題である。</p> <p>・汎用的能力は「4×3の比治山力」の評価を用いているが、専門的能力についてはカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの整合性を図った上で、新たな評価指標が求められる。</p>	<p>・ポリシーを踏まえた学習成果の点検・評価方法に全学的に、改善する。</p> <p>・「4×3の比治山力(汎用的能力)」に加え、専門的能力を可視化する指標として、「比治山型ディプロマ・サブリメント」の構築を行う。</p>	<p>・「4×3の比治山力」ルーブリック(APワーキング)議事録</p> <p>・学生による授業に関するアンケート調査結果</p> <p>・教授会資料(平成30年3月1日)</p> <p>・学生による授業に関するアンケート調査結果</p> <p>・平成29年度第1回授業改善学生モニター意見交換会議事録</p> <p>・平成29年度第2回授業改善学生モニター意見交換会議事録</p> <p>・就職先へのアンケート調査</p>
	<p><視点> 3-3-①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>(留意点) □ 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。</p>	<p>・昨年度の「卒業生対象アンケート調査」「共通教育に関するアンケート調査」は、集計結果を印刷物にまとめて教職員に配付し、学修における成果と課題を関係部局で検討し、本年度の学修指導や授業環境の改善に役立った。</p> <p>・「授業改善学生モニター」との意見交換会の学生の意見を具体的な業務改善に生かすため、本年度は「共通教育の授業アンケート」の結果と関連づけ、集約した。その結果を教員研修会で報告する事により、学修指導についての本学の良さと課題を把握する資料とした。</p>	<p>・現在実施している複数のアンケートが形式的になっている状況が一部みられるため、再検討の必要がある。</p>	<p>・現在実施している複数のアンケートが学修の成果を具体的に点検・評価する方法と なっているかについて再検討する。</p>	<p>・「平成29年度卒業生対象アンケート調査」結果</p> <p>・「平成29年度共通教育に関するアンケート調査」結果</p> <p>・平成29年度 第1回授業改善学生モニター意見交換会(平成29年度第1回教員研修会資料)</p> <p>・平成29年度 第2回授業改善学生モニター意見交換会(平成29年度第2回教員研修会資料)</p>
	<p><視点> 3-3-①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>(留意点) □ 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。</p>	<p>・就職先の企業アンケートは実施していないが、平成29年度は参与が、過去3年間の卒業生の定着率及び採用情報のため就職先企業へ訪問をし、情報を収集している。</p>	<p>・収集した卒業生情報は実態がつかみにくく、十分ではない。</p>	<p>・収集したい情報の調査項目を明確にして訪問を行う。</p>	<p>・企業訪問報告書</p>

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4～H30.5)

基準3. 教育課程

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-3 学修成果の 点検・評価	<p><視点> 3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>(留意点) □学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。</p>	<p>・「大学教育再生加速プログラム」事業においてねらいとする「4×3の比治山力(汎用的能力)」については、本学独自評価指標「比治山力レポート」を用いた評価を行っている。</p> <p>・就職先へのアンケート調査は、大学教育再生加速プログラム事業に伴い平成26年(20年)から実施し、「4×3の比治山力」(汎用的な力)について調査している。</p> <p>・学修状況の点検・評価は、学期末に実施される「学生による授業に関するアンケート調査」の集計結果により、点検評価を行い、教員コメントを作成・公表することで授業改善のために活用している。また、ベネッセ「大学生基礎力レポート」を大学1～4年、短大1～2年生に対して実施している。</p>	<p>・点検・評価の結果を教育内容・方法及び学習指導の改善にフィードバックすることが課題である。</p> <p>・汎用的能力は「4×3の比治山力」の評価を用いているが、専門的能力についてはカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの整合性を図った上で、新たな評価指標が求められる。</p>	<p>・ポリシーを踏まえた学習成果の点検・評価結果を組織的にフィードバックする仕組みを検証する。</p> <p>・「4×3の比治山力(汎用的能力)」に加え、専門的能力を可視化する指標として、「比治山型ディプロマ・サブプリメント」の構築を行う。</p>	<p>・「4×3の比治山力」ルーブリック(APワーキング)議事録</p> <p>・就職先へのアンケート調査</p> <p>・学生による授業に関するアンケート調査結果</p>
	<p><視点> 3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>(留意点) □学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。</p>	<p>・「学生による授業に関するアンケート調査」は前期・後期ともに全科目について実施済みあり、来年度の授業内容・方法及び学修指導の改善に生かしている。</p> <p>・「授業改善学生モニター」との意見交換会の学生の意見を具体的な業務改善に生かすため、本年度は「学生による授業に関するアンケート調査」の結果と関連づけ、集約した。その結果を教員研修会で報告する事により、本学の学修指導についての本学の良さと課題を把握する資料とした。</p>	<p>・学生による授業に関するアンケート調査については、形式的になっているのがみられるため、授業内容・方法及び学修指導のより具体的な点検・評価となるよう見直しが必要である。</p>	<p>・実施中のアンケートについて来年度に向けて見直しを進めている。</p>	<p>・平成29年前期学生による授業に関するアンケート調査結果</p> <p>・平成29年度共通教育に関するアンケート調査結果</p> <p>・平成29年度 第1回授業改善学生モニター意見交換会(平成29年度第1回教員研修会資料)</p> <p>・平成29年後期学生による授業に関するアンケート調査結果</p> <p>・平成29年度 第2回授業改善学生モニター意見交換会(平成29年度第2回教員研修会資料)</p>
	<p><視点> 3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>(留意点) □学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。</p>	<p>・就職先の企業アンケートは実施していないが、参加による企業訪問により、卒業生に関する情報を収集し、企業訪問報告書の活用促進、企業訪問報告会を実施している。</p>	なし	なし	<p>・企業等訪問活動の総括について(報告)</p>

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4～H30.5)

基準4. 教員・職員

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 4-1 教学マネジメントの機能性	<p><視点> 4-1-②権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメントの構築</p> <p>(留意点) □大学の意思決定の権限と責任が明確になっているか。 □使命・目的の達成のため、教学マネジメントを構築しているか。 □大学の意思決定及び教学マネジメントが大学の使命・目的に沿って、適切に行われているか。</p>	<p>・教授会は毎月1回開催した。 ・学長の交代に伴い、学長及び副学長の所掌事務を一部変更した(4月)。</p>	なし	<p>・平成30年2月9日の理事会において関係規程を改正し、運営戦略本部会議の構成員から各学科主任を外し、学部長、短大部長を各組織の教学運営の中心と位置付けて、機能的、効率的なガバナンス構築につなげた。</p>	<p>・比治山大学短期大学部学則 ・比治山大学短期大学部教授会規程 ・比治山大学運営戦略本部規程</p>
	<p><視点> 4-1-③職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメントの機能性</p> <p>(留意点) □教学マネジメントの遂行に必要な職員を適切に配置し、役割を明確化にしているか。</p>	<p>・平成29年3月31日に大学設置基準が改正され、事務職員の資質向上による教職協働の推進が規定されたことから、7月28日の理事会において学校法人比治山学園事務等組織規程を改正し、課(室)長、課(室)長補佐の職務中「事務を処理する」を「事務を遂行する」に変更した。 ・平成29年度は大学改革推進会議を2回開催した。 ①11月24日：学園創立80周年記念事業の実施、牛田キャンパス施設設備整備計画について ②2月9日：学納金の改定、短期大学部将来構想に係る調査結果の報告について</p>	なし	なし	<p>・学校法人比治山学園寄附行為 ・学校法人比治山学園理事長等に対する事務委任規程 ・学校法人比治山学園事務等組織規程 ・学校法人比治山学園法人事務局規程 ・学校法人比治山学園経営戦略会議設置規程 ・比治山大学短期大学部学則 ・比治山大学文書事務取扱規程 ・比治山大学決裁規程</p>

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4～H30.5)

基準4. 教員・職員

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 4-2. 教員の 配置・職能 開発等	<p><視点> 4-2-①教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置</p> <p>(留意点) □大学及び大学院に必要な専任教員を確保し、適切に配置しているか。 □教員の採用・昇任の方針に基づく規則を定め、かつ適切に運用しているか。</p>	<p>・短期大学部及び学科の教育目的及びカリキュラムに沿った教育活動が十分にできるよう教員組織が整備されている。</p> <p>・教員の採用については、「学校法人比治山学園就業規則(大学等の部)」「比治山大学教員選考規程(短期大学部)」に則り、公募によることを原則とし、学科の改組、教育課程の変更、辞職・定年退職等により必要が生じたときに、採用を行っている。</p> <p>・「比治山大学特別専任教員規程(短期大学部)」、「比治山大学特任教員規程」、「比治山大学契約教員規程(短期大学部)」を制定し、多様な教員任用を考慮している。</p> <p>・教員の昇任は、「比治山大学教員選考規程(短期大学部)」により、職位の資格を定め、教育研究業績を主とし、社会的活動実績、学務実績、勤務年数(教育歴)、年齢等を考慮することとしている。</p> <p>・「教員人事に関する方針」を定め、教員人事(採用・昇任等)について、手続きをより明確にし、これに基づいた採用、昇任が行われている。</p> <p>・教員人事の選考手続きは、「比治山大学短期大学部人事教授会規程」に定め、「人事教授会」の下に「選考委員会」(主査1名委員2名)を設け審査し、審査結果を人事教授会に報告している。</p> <p>・比治山大学教員選考細則(短期大学部)を制定し、教員業績の基準を明確にした。</p>	なし	なし	<p>・比治山大学教員選考規程(短期大学部)</p> <p>・比治山大学人事教授会規程(短期大学部)</p> <p>比治山大学教員選考細則(短期大学部)</p> <p>・教員人事に関する方針</p> <p>・ホームページ>大学案内>教育研究活動等の公開>公表する教育情報>教員組織図</p> <p>http://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/3kyouin_tandai.pdf</p>
	<p><視点> 4-2-②FD(Faculty Development)をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施</p> <p>(留意点) □FD、その他教員研修の組織的な実施とその見直しを行っているか。</p>	<p>・平成29(2017)年度における教員研修会の取り組みについては、全学的な教育課題を踏まえての研修を外部講師・学内担当者により実施した。</p> <p>・9月は「授業改善学生モニター意見交換会(第1回)報告」「大規模災害時における安否確認システムについて」「教職課程再課程認定等の説明」「『4×3の比治山力』ルーブリックについて」「今後の私立大学のあり方について～ステークホルダーは『学生』～」を実施した。</p> <p>・3月は「人権研修:学生相談の状況について」「授業改善学生モニター意見交換会(第2回)」「学科別研修:授業改善の方向性と具体策等」「AP(大学教育再生加速プログラム)報告」「APセミナー:ルーブリックの効果的な活用法」「大学の卒業生に求められる社会人力」「大学入試改革にどう取り組むべきか」を実施した。</p>	<p>・平成29年度(2017)年度に実施した2回の教員研修会の成果と課題をまとめ、次年度の年間計画を構想する必要がある。</p>	<p>・平成29年度(2017)年度に実施した2回の教員研修会の成果と課題をまとめ、次年度の研修会の時期・回数、内容について検討を開始している。</p>	<p>・平成29年度 第1回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会」実施要項</p> <p>・「平成29年度 第1回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会」配付資料</p> <p>・「平成29年度 第2回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会」実施要項</p> <p>・「平成29年度 第2回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会」配付資料</p>

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4～H30.5)

基準4. 教員・職員

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 4-3 職員の研修	<p><視点> 4-3-①SD(Staff Development)をはじめとする大学運営に関わる職員の資質・能力向上への取組み</p> <p>(留意点) □職員の資質・能力向上のための研修などの組織的な実施とその見直しを行っているか。</p>	<p>・比治山大学・比治山大学短期大学部スタッフデベロップメント基本方針に基づき、2日間の職員研修(教員との合同研修含む)、学内教員による「比治山大学におけるグローバル化対応:現状分析と今後必要とされること」をテーマとした講演を行った。</p> <p>・外部機関による研修プログラムの利用を企画し、平成30年3月までに38講座に延べ42名が参加した。</p> <p>・本学の職務に関連する課題について、勤務時間外に行う研修費等の補助を行う、「自己啓発研修費の補助制度」に、平成29年度は、1件の申請があり、1件が採択された。</p>	<p>・外部研修への職員派遣については、現在、所属部署の要請や職員からの自主的の希望に基づき実施しており、本来研修が必要な者が必要な研修を受講する体制となっていない。</p> <p>・成果発表や報告を行う機会がないことが課題である。</p> <p>・自己啓発研修費の補助については、利用者が少ない。</p> <p>・業務が忙しく、遠方での外部研修へ参加できない者がいる。</p>	<p>・職員研修制度運営委員等の受講者指名による派遣が行えるよう検討する。</p> <p>・研修成果の定着や効果の最大化のため、研修前後の仕組みづくりの検討を進める。</p> <p>・自己啓発研修費の補助については、規程の改正及び目標面接等で管理者による利用促進を検討する。</p> <p>・移動時間が不要で、受講日時も受講者が自由に設定できるweb環境を利用した研修の導入を検討する。</p>	<p>・比治山大学・比治山大学短期大学部スタッフデベロップメント基本方針</p> <p>・比治山大学事務職員研修要項</p> <p>・比治山大学事務職員の自己啓発研修費補助に関する内規</p> <p>・平成29年度 比治山大学職員研修実施要領</p> <p>・平成29年度 第1回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会(教職員合同研修)</p> <p>・平成29年度 第2回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会(教職員合同研修)</p> <p>・グローバル化対応のためのSD「比治山大学におけるグローバル化対応:現状分析と今後必要とされること」資料</p> <p>・メイツ中国2017年度「定額制研修プログラム」参加者リスト</p>	

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準4. 教員・職員

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 4-4 研究支援	<p><視点> 4-4-①研究環境の整備と適切な運営・管理</p> <p>(留意点) □快適な研究環境を整備し、有効に活用しているか。</p>	<p>・専任教員の研究室は、個人ごとに確保されている。</p>	なし	なし	<p>・比治山手帳(教員・客員教授一覧表、学内施設案内図)</p>
	<p><視点> 4-4-②研究倫理の確立と厳正な運用</p> <p>(留意点) □研究倫理に関する規則を整備し、厳正に運用しているか。</p>	<p>・平成28年度に「研究倫理委員会規程」を改正し、それに基づく研究倫理審査を行っている。</p>	<p>・研究倫理指針等の周知が必要である。</p>	<p>・研究倫理に関する研修をおこなう。</p>	<p>・研究倫理指針 ・研究倫理委員会規程</p>
	<p><視点> 4-4-③研究活動への資源の配分</p> <p>(留意点) □研究活動への資源配分に関する規則を整備し、設備などの物的支援とRA(Research Assistant)などの人的支援を行っているか。 □研究活動のための外部資金の導入の努力を行っているか。</p>	<p>・個人研究費規程の改正を行い、より研究意欲のある教員に「研究奨励費」として研究費の配分を高めた。 ・平成30年度「比治山大学研究助成」は12月に審査を行い、それぞれの助成額を減額はしたものの、短大1件の申請を全て採択とした。 ・平成29年度の科研費は1件の申請を行い1件が採択された。 ・平成30年度は3件の申請を11月に行った。</p>	<p>・外部資金補助金申請など、研究活動の活性化をさらに推進することが課題である。</p>	<p>・平成30年度から外部資金補助金申請者・採用者等への研究奨励費を増額するため、比治山大学教員個人研究費規程の改正した。</p>	<p>・教員個人研究費規程 ・研究助成規程 ・研究助成取扱要領 ・教員選考細則</p>

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準5. 経営・管理と財務

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 5-1 経営の規律 と誠実性	<p><視点> 5-1-②使命・目的の実現への 継続的努力</p> <p>(留意点) □使命・目的を実現するた めに継続的な努力をしてい るか。</p>	<p>・学校法人比治山学園寄附行為に掲げている目的に沿って策定した比治山学園中期計画(平成28年度から平成33年度までの6年間)に沿って平成29年度の事業計画を実施している。</p> <p>・実施に当たり、各年度定例に報告(年2回)を受け、進行状況を把握し、必要な修正を加えらるとともに全体的な見直しを行っている。</p> <p>・事業計画と併せて予算についても中間報告を受け、執行状況を把握している。</p> <p>・補助金等外部資金獲得への取り組み、経費削減への取り組みなどの対応や予算の執行状況についても報告を徴取し、実施状況を確認している。</p> <p>・理事会・評議員会、経営戦略会議、大学改革推進会議、運営戦略本部会議、教授会等の主要会議は議事録を作成し、審議経緯と結果を適切に管理している。</p>	なし	なし	<p>・学校法人比治山学園寄附行為</p> <p>・比治山学園中期計画(平成28年度から平成33年度まで)</p> <p>・平成29年度事業計画の進捗状況(平成30年1月末現在)</p> <p>・主要会議議事録</p>
【基準項目】 5-2 理事会の機 能	<p><視点> 5-2-①使命・目的の達成に向 けて意思決定ができる体制の 整備とその機能性</p> <p>(留意点) □使命・目的の達成に向けて 意思決定ができる体制を整備 し、適切に機能しているか。 □理事の選任及び事業計画 の確実な執行など理事会の 運営は適切に行われている か。 □理事の出席状況及び欠席 時の委任状は適切か。</p>	<p>・「経営戦略会議」や「大学改革推進会議」を設置し、理事会において学園及び各設置校の重要事項について機動的・戦略的に意思決定ができる体制を構築している。</p> <p>・理事会機能の活性化を図るため理事研修会を継続して行っている。平成29年度は外部講師により2回実施した。</p> <p>・理事・評議員に配付している「理事・評議員必携」について、学校関係事項の新しい動き等の説明や教育及び会計用語集に用語を付け加える等内容の充実を図り、資料編についても平成29年度の内容に更新し配付した。</p> <p>・理事会は法令及び寄附行為に基づき適切に運営されている。平成29(2017)年度は、臨時を含め8回開催し、理事の出席状況は実出席率98.5%と適切である。</p> <p>・理事の欠席時に意思表示を行う書面に、議案に対する賛否の意思表示のための意見欄を設けている。更には、理事会開催前には専務理事が外部理事に議案の説明をしており、円滑な意思決定ができています。</p> <p>・理事は、寄附行為に基づき適切に選任されている。</p> <p>・事業計画について、年2回進捗状況を確認し、必要な修正を加えている。</p> <p>・理事会は、理事長等に事務委任したもの以外の学校法人の業務を決定するとともに、学長や校長から事業の進捗状況について報告を求め、引き続き状況をチェックし、意見を述べる等、理事の職務の執行も監督している。</p>	なし	なし	<p>・学校法人比治山学園経営戦略会議設置規程</p> <p>・学校法人比治山学園寄附行為</p> <p>・比治山学園中期計画(平成28年度から平成33年度まで)</p> <p>・平成29年度事業計画の進捗状況(平成30年1月末現在)</p> <p>・経費削減への取組の状況報告(H29.5.26理事会・評議員会報告資料)</p> <p>・理事研修会開催状況</p> <p>・学校法人比治山学園理事会議事録</p> <p>・平成29年度理事会・評議員会の開催状況</p> <p>・理事会等出欠はがき</p> <p>・理事・評議員必携</p>

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4～H30.5)

基準5. 経営・管理と財務

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 5-3 管理運営の 円滑化と相 互チェック	<p><視点> 5-3-①法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化</p> <p>(留意点) □意思決定において、法人及び大学の各管理運営機関の意思疎通と連携を適切に行っているか。 □理事長がリーダーシップを発揮できる内部統制環境を整備しているか。</p>	<p>・「経営戦略会議」を概ね毎月1回開催し、経営や教学に関する重要事項について協議している。</p> <p>・「経営戦略会議」の中に、「大学改革推進会議」を設置し、非常勤理事も加え、重要事項について各部門が連携して協議する体制となっている。</p> <p>・大学事務局長は法人事務局長の次長を兼務し、専務理事兼法人事務局長は、大学の各部門の事務責任者で構成する室長会議に参画する等、実務レベルでの意思疎通と連携を図っている。</p> <p>・理事会で審議される事項は、事前に必ず「経営戦略会議」において検討・協議され、議案の調整・決定を行っている。「経営戦略会議」には各設置校の役職者が出席し相互チェックと連携が働いている。</p> <p>・学校法人比治山学園理事長等に対する事務委任規程を定め、理事長に権限を委任するとともに、学校法人比治山学園法人事務局処務規程により理事長決裁を明確にし、理事長に権限を集中的に付与している。</p> <p>・理事長がリーダーシップを発揮できるよう、学園内外の情報は日頃から報告・説明を行っている。</p>	なし	なし	<p>・学校法人比治山学園寄附行為</p> <p>・学校法人比治山学園経営戦略会議設置規程</p> <p>・平成29年度理事会・評議員会開催状況</p> <p>・比治山学園事務組織規程</p> <p>・比治山学園組織図</p> <p>・学校法人比治山学園理事長等に対する事務委任規程</p> <p>・学校法人比治山学園法人事務局処務規程</p> <p>・比治山大学文書事務取扱規程</p>
	<p><視点> 5-3-②法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックの機能性</p> <p>(留意点) □法人及び大学の各管理運営機関が相互チェックする体制を整備し、適切に機能しているか。 □監事の選任は適切に行われているか。 □監事は、理事会及び評議員会などへの出席状況は適切か。 □監事は、理事会及び評議員会などへ出席し、学校法人の業務又は財産の状況について意見を述べているか。 □評議員の選任及び評議員会の運営は適切に行われているか。 □評議員の評議員会への出席状況は適切か。 □教職員の提案などをくみ上げる仕組みを整備しているか。</p>	<p>・法人と大学の業務処理は、起案決裁により業務執行の手続きを行っている。特に重要な案件は相互に合議され、相互に動向を把握し、チェックしている。最終の意思決定を行うまでに複数の協議体で議論、検討がなされているため相互機能のチェック体制は整備されている。</p> <p>・監事は、寄附行為に基づき、適切に選任している。</p> <p>・監事は、理事会及び評議員会に毎回出席し、法人の業務や財産の状況を把握し、必要に応じて意見を述べている。平成29年度12月までの理事会及び評議員会への実出席率は、理事会68.8%、評議員会87.5%と良好である。</p> <p>・評議員会は、25人の評議員(定数20～25)で構成し、理事定数7～9人の2倍を上回っている。</p> <p>・評議員は寄附行為に基づき適切に選任している。</p> <p>・評議員会は、理事会の諮問機関として、適切に運営している。平成29(2017)年度は、臨時評議員会を含め4回開催し、寄附行為に定められた事項はもとより、学園の業務に関する重要な事項についてあらかじめ意見を聞いている。また、その都度学園の状況について報告をしている。</p> <p>・平成29(2017)年の評議員会への評議員の実出席率は70.4%である。</p> <p>・教職員の提案をくみ上げる仕組みとしては「事務職員提案実施要綱」を制定している。その他、意思形成を行うまでの各種会議に構成員として参画している。</p>	評議員の恒常的欠席者が課題である。	出席を働きかける。	<p>・学校法人比治山学園寄附行為</p> <p>・平成29年度理事会・評議員会開催状況</p> <p>・学校法人比治山学園理事会議事録</p> <p>・学校法人比治山学園評議員会議事録</p>

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4～H30.5)

基準5. 経営・管理と財務

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 5-4 財務基盤と 収支	<p><視点> 5-4-①中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>中長期的な計画に基づく財務運営を行っているか。</p>	<p>・平成28年10月26日の理事会で承認された「中期財政計画の見直し」を、28年度決算数値及び29年度学納金収入予測と私学事業団からの借入金収入を反映して再度見直しを行い、平成29年10月18日の理事会で承認された。この再度見直しされた中長期計画に基づき現在財務運営が行われている。</p>	<p>・経常費補助金のうち経営強化集中支援事業については選定基準61点以上に対して得点57点で採択されなかった。</p>	<p>・設問内容と要件を再度検証して、今年度の56点から改善できる項目があるかどうか検証する。</p>	<p>29年度決算書類 ・資金収支計算書 ・事業活動収支計算書 ・貸借対照表</p>	
【基準項目】 5-5 会計	<p><視点> 5-5-①会計処理の適正な実施</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>学校法人会計基準や経理に関する規則などに基づく会計処理を適正に実施しているか。 <input type="checkbox"/>予算と著しく乖離がある決算額の科目について、補正予算を編成しているか。</p>	<p>・学校法人会計基準・比治山学園経理規程に則して会計処理を行っている。また実務的に対応できない財務案件については適宜私学事業団・公認会計士にアドバイスを仰いでいる。 ・補正予算については第4回目の補正予算案を3月26日の理事会に提出し承認された。</p>	<p>・建物工事等の支出については予算策定時点では修繕費・設備関係支出(建物支出)等の区分けが明確にできないことがある。支出全体では予算内にコントロールできているが、決算時に費用科目毎での差異が生ずることがある。</p>	<p>・予算と著しく乖離した時点の直近の理事会で、補正予算の編成を行う。 ・資金収支予算書の予算執行状況について中間チェックを行い、毎年10月の理事会で報告を行う。</p>	<p>29年度補正予算書類 ・資金収支計算書 ・事業活動収支計算書</p>	

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準6. 内部質保証

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 6-1 内部質保証 の組織体制	<p><視点> 6-1-①内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立</p> <p>(留意点) □内部質保証のための恒常的な組織体制を整備しているか。 □内部質保証のための責任体制が明確になっているか。</p>	<p>・内部質保証のための責任体制として、学長を本部長とする「運営戦略本部」を設置している。</p> <p>・内部質保証の恒常的な組織体制として、「運営戦略本部」の下に評価委員会を置き、大学評価を指揮・管理し、日本高等教育評価機構の評価基準を参考にし、報告書案を作成するとともに、学生による授業評価、教職員研修を行っている。</p> <p>・評価委員会には「大学部会(大学院含む)」「短大部会」「事務部会(法人事務局含む)」を置き、自己点検・評価を行い、年度ごとに自己点検評価書を作成し、執行部会、運営戦略本部、教授会に報告し、ホームページ等で公表している。</p>	<p>・内部質保証の体制については、自己点検・評価の結果を改革・改善に確実に繋げることが課題である。</p>	<p>・内部質保証を恒常的に維持するために、そのPDCAサイクルを必要かつ十分に機能させる組織体制を構築する。</p>	<p>・比治山大学点検・評価規程</p>
	<p><視点> 6-1-①内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立</p> <p>(留意点) □内部質保証のための恒常的な組織体制を整備しているか。 □内部質保証のための責任体制が明確になっているか。</p>	<p>・平成26年の学校教育法の改正を受けて学長のリーダーシップによるガバナンスを強化するため学内諸規程の改正を行い、学長補佐体制(副学長、図書館長、学長補佐)の主な所掌や関連組織・業務等を明確化し周知することで関連の委員会等との連携が強化され、大学の使命、目的及び学修者の要求に対応できるように体制を整えている。</p> <p>・学長を本部長とする運営戦略本部会議では、副学長、図書館長、学長補佐、学部長、短大部長、各学科主任が構成員となり、大学、大学院及び短期大学部の中長期的ビジョンの策定や緊急課題に対する諸施策の企画立案及び調整を行っている。</p>	なし	<p>・平成30年2月9日の理事会において関係規程を改正し、運営戦略本部会議の構成員から学科主任を外し、学部長、短大部長の学部、短大における教学運営の責任者としての立場を明確化することにより、効率的なガバナンス体制の構築につなげた。</p>	<p>・比治山大学短期大学部学則</p> <p>・平成29年度比治山大学・比治山大学短期大学部の学長補佐体制について</p> <p>・比治山大学・比治山大学短期大学部学長補佐選考内規</p> <p>・比治山大学運営戦略本部規程</p>
【基準項目】 6-2 内部質保証 のための自己点検・評価	<p><視点> 6-2-①内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有</p> <p>(留意点) □内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価をどのように行っているか。 □エビデンスに基づく、自己点検・評価を定期的実施しているか。</p>	<p>・本学の課題や将来構想を見据え、本年度より日本高等教育評価機構の新しい基準による自己点検・評価を実施した。また、「現状」「進捗度」「課題」「改善方策」とともに「根拠資料」を明記することとし、より正確な評価となるようにした。</p> <p>・PDCAサイクルの確実な実施を目指して、本学の中期計画・年度計画を大学独自の基準に位置づけることとした。また、年度途中での改善や予算申請にも生かすことができるように、平成30年度は中間評価を10月に実施し、11月以降にはその改善にも着手できるように時期の変更を決定した。</p> <p>・新基準による平成29年度自己点検評価書(期末報告)に向けて、中間報告のとりまとめ結果を踏まえ共通確認事項等を再度周知した。</p>	<p>・中間評価結果及び今年度末の評価結果をとりまとめた結果に基づいて新基準によるエビデンスに基づいた自己点検評価の実施状況を確認する必要がある。</p>	<p>・中間評価結果及び年度末の評価結果に基づいて、新基準によるエビデンスに基づいた自己点検評価について再度共通確認の必要な事項等を取りまとめ、全教職員に周知する。</p>	<p>・大学 平成29年度自己点検評価書(中間報告)作成依頼に関する資料</p> <p>①平成29年度自己点検評価書(大学)について</p> <p>②自己点検評価書の基本スケジュールとPDCAサイクルについて</p> <p>③平成29年度自己点検評価書中間報告・最終報告 様式</p> <p>④平成29年度自己点検評価書の評価項目について(新基準・旧基準の説明)</p>
	<p><視点> 6-2-②IR(Institutional Research)などを活用した十分な調査・データの収集と分析</p> <p>(留意点) □現状把握のための十分な調査・データの収集と分析を行える体制を整備しているか。</p>	<p>・①インスティテューショナル・リサーチ委員会(IR委員会)で、入試・教学・キャリア等の分析結果を報告した。昨年度の東北文化学園大学との相互評価を受け課題となっていた、ファクトブック(年次報告書)の作成は完成し、継続して作成していく。また、政策提言を行うための分析モデルの構築についての課題は、退学者予測モデルを作成し報告を行った。学長へも退学者予測モデルについて3月に報告を行った。これまでの学生・学修支援型のIRに加えて経営面からのIRへの取り組みも進めている。</p> <p>・②職員能力向上のための活動として、分析ソフトの研修や、IR勉強会に参加した。また、IR座談会を月2回程度開催し、分析レポートの意見交換を行った。</p> <p>・③成果の公表として「比治山大学紀要」に「比治山大学・比治山大学短期大学部におけるインスティテューショナル・リサーチの現状と課題」を投稿した。</p>	<p>・①情報収集データの継続的クレンジング②分析例を増やしモデルを構築③分析結果に基づく政策提言を行う④分析結果を蓄積するため指標開発⑤全学的に行われている調査・アンケートの見直しと課題である。</p>	<p>・データの細部の確認、データ作成のルール化、分析結果の執行部への報告、AP事業との連携、外部データの活用、全学的に行われている調査・アンケートの見直し・合理化を行う。</p>	<p>・比治山大学インスティテューショナル・リサーチ委員会規程</p> <p>・研修会報告書</p> <p>・IR委員会議事録</p> <p>・比治山大学紀要第 24号</p>

平成29年度 自己点検評価書 (H29.4~H30.5)

基準6. 内部質保証

比治山大学短期大学部

評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 6-3 内部質保証 の機能性	<p><視点> 6-3-①内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組みの確立とその機能性</p> <p>(留意点) □ 三つのポリシーを起点とした内部質保証が行われ、その結果が教育の改善・向上に反映されているか。 □ 自己点検・評価、認証評価及び設置計画履行状況等調査などの結果の活用により、中長期的な計画を踏まえた大学運営の改善・向上を図るなど、内部質保証の仕組みが機能しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成29(2017)年度は大学全体のディプロマ・ポリシー(以下DP)に基づいて各学科・コースのディプロマ・ポリシーの見直しを行った。その際、学科・コースごとに所属学生のディプロマ・ポリシー-DPの達成状況を指標化し把握することで教育効果を測定できるようにして、その達成指標としてディプロマ・ポリシー-DPに関連する検定や外部試験等を活用することを検討した。 日本高等教育評価機構の新評価基準に基づく自己点検評価については、評価委員会が学部・学科、センター、委員会等の組織体による自己点検・評価を集約し、中間評価を行い、年度ごとに自己点検評価書まとめ、執行部会、運営戦略本部、教授会等に報告するとともに、ホームページ等で公表している。 中期計画の自己点検・評価については、9月と翌年1月に、部局単位で中間評価を行い、その結果を「主要事業計画進捗状況」として集約して執行部会、運営戦略本部、教授会、経営戦略会、理事会等に報告している。また、その報告内容は次年度の予算編成のための資料としている。 平成29(2017)年度は、教育、研究、社会貢献に対する質保証や大学運営の改善・向上を図るため、学長の指示のもとで教員の昇任・選考基準の制定を行った。 以上のように、本学では、内部質保証を維持する機能を整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ディプロマ・ポリシーの達成状況の指標を作ることが課題である。 内部質保証については、認証評価の新しい基準を周知し、PDCAサイクルを作ることが課題である。 カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーを起点とした内部質保証については早急に着手する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ディプロマ・ポリシーの達成状況の指標を把握し、認証評価の新基準を理解する。 内部質保証を恒常的に維持するために、予算と評価を連携するPDCAサイクルの仕組みを構築する。 カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーを起点とした内部質保証についてもその質保証システムを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学科におけるディプロマ・ポリシーの達成のための計画策定について(運営戦略本部会議H29.06.23) 平成29年度 主要事業計画進捗状況 比治山大学教員選考細則(大学の制定案について(運営戦略本部会議H29.10.10)) 比治山大学教員選考細則(大学の制定案について(各学部教授会H29.10.19))
	<p><視点> 6-3-①内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組みの確立とその機能性</p> <p>(留意点) □ 三つのポリシーを起点とした内部質保証が行われ、その結果が教育の改善・向上に反映されているか。 □ 自己点検・評価、認証評価及び設置計画履行状況等調査などの結果の活用により、中長期的な計画を踏まえた大学運営の改善・向上を図るなど、内部質保証の仕組みが機能しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 短期大学部は、平成27年9月に理事会で承認された「比治山学園中期計画」(平成28年度～平成33年度)にそれぞれのミッション、5つの個別ビジョン(教育改革、研究活性化、地域貢献、国際化、基盤整備)及び22の重点事業を定め、同時に承認された年次計画に沿って実施している。 毎年度の重点事業の実施結果は翌年5月の理事会・評議員会において報告するとともに、9月末と1月末現在の進捗状況についても直近の理事会・評議員会で報告している。 平成30年度予算編成から、中期計画の前年度実施結果及び当該年度の進捗状況を検証し申請内容に反映させることとしている。 監事が年2回行う業務監査(5月、10月)においても上記の実施結果や進捗状況について説明し、質疑の結果を事業実施に反映している。 平成28年度以前の業務監査(5月)においては、短期大学部の直近の自己点検評価書を監査資料として提出し、質疑を受けていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検評価結果が中期計画の進行管理により反映できる仕組みづくりが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検評価結果が中期計画の進行管理により反映できる仕組みを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 比治山学園中期計画(大学・短期大学部) 平成29年度事業報告書(大学・短期大学部)(理事会資料) 平成30年度予算編成方針(大学・短期大学部及び幼稚園) 平成28年度決算に係る業務監査について(通知)(平成29年4月14日) 平成27年度決算に係る業務監査について(通知)(平成28年4月12日) 平成29年度監査計画

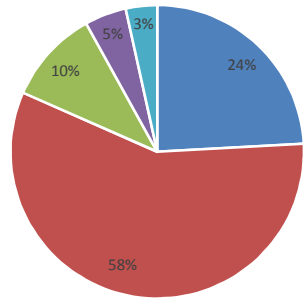
独自基準 比治山大学・比治山大学短期大学部 中期計画(平成28年度から平成33年度)に基づく平成29年度事業計画進捗状況について

中期計画(平成28年度から平成33年度)を策定するにあたり、本学の「建学の精神」をあらためて振り返り「ミッション」を再定義し、6年先までにありたい姿としての「ビジョン」を明確にした。ビジョンは大学、短大全体ビジョンと個別の5ビジョンを設定し、ビジョン実現のために22の主要事業と、これに紐づく具体的な重点施策である「重点計画」で構成している。各年度の事業計画は、基本的にこの「重点計画」を実施するものである。

平成29年度事業計画の進捗状況についてビジョンごとに以下のとおり点検した。

主 要 事 業	各事業の進捗度 (H30.1現在)				
	A	B	C	D	-
1 教育改革ビジョン					
(教学)					
1 大学教育再生加速プログラムの継続			4		
2 学生満足度向上		1	1	1	
3 高一大一社会の接続事業			2	1	
4 「4×3の比治山力」を支えるための基礎を構築			1		
5 外国語関係科目の授業者に対してアクティブ・ラーニングの授業形態等の研修		1			
6 大学を取り巻く様々な課題への取り組みと卓越した教育の推進			2		1
(キャリアガイダンス・支援)					
7 学生の主体的キャリアビジョン育成システム			7	1	
(学生支援)					
8 主体的な学びの意欲と強靱な心身の育成			2		
9 「Me+Library」を含む図書館の充実		3	1		
(入試広報)					
10 広島県内外のみならず世界から、優秀で志の高い入学生の確保			4		
教育改革ビジョン計		5	24	3	1
2 研究活性化ビジョン					
11 各教員個々の教育研究力向上と研究成果レベル向上、研究活動成果発信の体制整備及び研究推進支援の充実				2	
3 地域貢献ビジョン					
12 大学諸活動の「見える化」推進による地域のニーズへの対応と学科の特性に応じ学生参加型地域貢献・連携活動の推進				4	
4 国際化ビジョン					
13 国際化5戦略(①海外留学促進②留学生受入促進③教職員国際化支援④地域グローバル化対応⑤グローバル人材養成)と国際交流センターの整備		10	8	3	1
14 海外研修プログラムの体系的整備			4	2	
国際化ビジョン計		10	12	5	1
5 基盤整備ビジョン					
(大学教育の質保証)					
15 事務組織体制の構築と人事考課制度の実効性確保					1
16 コンプライアンス、PDCAの実効性強化及びIR委員会機能の充実と確立		1	1		
17 収入定員確保のための教育組織の見直し				1	1
(施設整備・環境整備計画)					
18 教育内容等に対応した施設整備、学生視点を重視したキャンパスや利便性の向上、学生生活を支えるための施設整備の充実		1	1		
19 情報通信技術を活かした教育環境の整備、情報セキュリティ確保、機器更新、情報センター組織の確立		2	2		
(情報公開とアカウントビリティ)					
20 大学情報公開の活性化と広報戦略の確立		1	1		
(財政基盤の安定と機動的意決定)					
21 学納金収入確保と外部資金の積極的導入による大学経営基盤の安定			1		
22 経営ガバナンスにおける大学、短期大学のマネジメント体制の確立と業務執行管理体制の強化と機動的意決定のための運営体制の構築		1			
基盤整備ビジョン計		6	6	1	2
6 その他(新たに取り組んだ事業)					
1 公認心理師養成課程の開設準備			1		
2 教職課程再課程認定申請関連			1		
総計		21	50	9	4

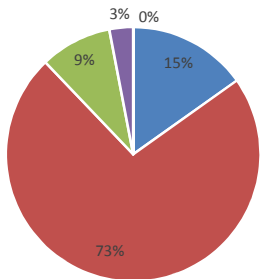
事業計画全体進捗状況



■ A ■ B ■ C ■ D ■ -

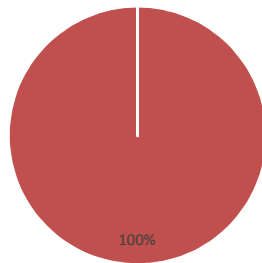
事業計画全体としては、A評価24%、B評価58%であり、80%以上の事業が完了または予定通りの進捗となっている。遅れている事業としてC評価10%、未着手D評価5%があり、全体で15%の事業が遅れている。国際化ビジョンにおいて事業進捗に課題があり、基盤整備ビジョンについては事業項目変更のシェアが大きい。これらについては、個別の事業計画の見直しや進捗管理を適正に行うこととしたい。引き続き中期計画の後期に入り、目標達成のために平成30年度事業計画から取り組みを始める。なお、中期計画については、平成30年度、中間見直しを実施する予定である。

教育改革ビジョン



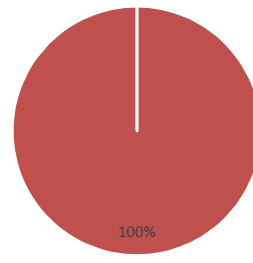
■ A ■ B ■ C ■ D ■ -

研究活性化ビジョン



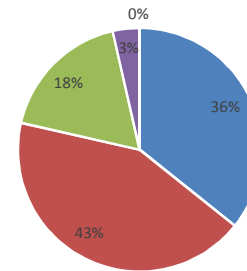
■ A ■ B ■ C ■ D ■ -

地域貢献ビジョン



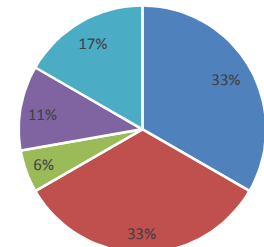
■ A ■ B ■ C ■ D ■ -

国際化ビジョン



■ A ■ B ■ C ■ D ■ -

基盤整備ビジョン



■ A ■ B ■ C ■ D ■ -

平成 29 年度 自己点検評価書

発行日 平成 30 年 7 月
編集・発行 比治山大学短期大学部
広島市東区牛田新町四丁目 1 - 1
電話 : 0 8 2 - 2 2 9 - 0 1 2 1
F A X : 0 8 2 - 2 2 9 - 5 1 0 0